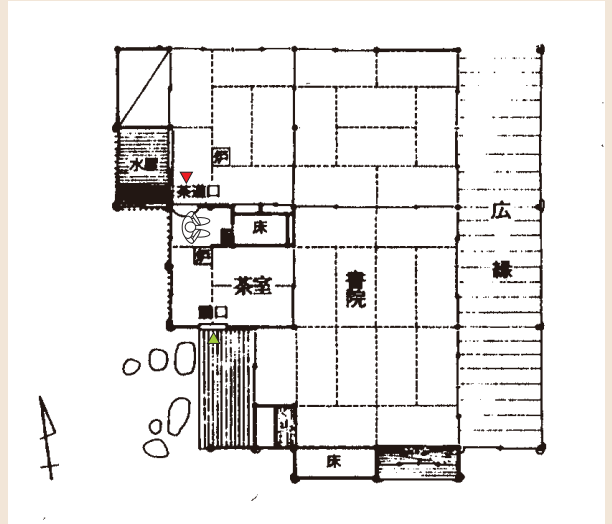


茶室覚書

小堀遠州の指図 京都 南禅寺金地院 三畳台目 八窓席
 1628寛永四年 重要文化財 はっそうせき

躰り口：南禅寺の塔頭金地院、書院裏の縁に付けた躰り口
 天井：床前を蒲の平天井で棹縁床指（異例）他を化粧屋根
 点前座：中柱は椿 二重棚 袖壁に下地窓
 窓：点前座後の連子窓と下地窓の2つ、客付きに1つ、
 躰り口の上部に大きな連子窓1つで合計4窓
 外壁2方向からの採光を最大限に取り入れて、開放的な
 明るさのある茶室
 茶室内下地窓：床／点前座の2ヶ所

- ・三畳台目の茶室で、十三畳敷きの書院に隣接してこちらからも茶室へ出入りが出来る
- ・小堀遠州の監修した茶室と言われ、遠州の得意な手法が随所に見られる。
- ・縁に付けた躰り口／躰口を壁中央に開けて下座を相伴席に扱う／床と点前座を並べて配置など
- ・八窓席といわれるが、下地窓を入れても全部で六窓の茶室 繊細な納まり感は弱く、遠州の監修はどこまでかは不明



外観 縁に付けたの躰り口

